JEAS資格制度も視野

正しい運用、知識浸透目指した「JEAS講習会」開始

日本万引防止システム協会

日本万引防止システム協会（東京都新宿区、山村秀彦会長、TEL03・3355・2322、以下JEAS）は、新たな取り組みとして24日に「JEAS講習会」を初開催。将来的には万引防止システムに関する資格制度を視野に入れる。

JEASでは、同講習会を通じて、万引防止システムに携る全ての層を対象に正しい運用、知識修得の働き掛けを進める方針。

全刑法犯認知件数が減少傾向にある中、認知件数に占める万引き犯罪の比率は増加傾向が見られる。こうした万引き犯罪抑止に、小売各業態では万引防止システムの導入が進んでいる。だが、万引防止システム導入でロス率削減、顧客満足度を向上させるためには、万引防止システムに対するユーザ側の理解向上に加え、万引防止システムの販売、設置、保守に関わる担当者が正しい知識を有する必要がある。また、一部ではユーザ、販売側の双方が万引防止システムに対する理解が不十分なため、適切に運用されていない例も散見される。

JEASでは、こうした現状を踏まえ、万引防止システムに関する教育、人材育成への取り組みとして、「JEAS講習会」を今月24日に東京・四谷のJEAS本部で初開催する。第1回講習会は、EASについての正しい運用、知識を身に付けることで、ユーザに対する提案及びサポート力の向上を目的とするもの。

プログラムは、EAS各方式とケーブル式、ソースタギングといったシステム面に加え、EAS市場、運用及び設置基準や防犯理論などEAS取り扱いに必要な概要を網羅。初回は13時から17時半までの4時間半のスケジュールで行われ、受講者にはJEAS登録番号入りの修了証を発行。EASに関する総合的なスキルを備えた人材が増えることで、ユーザに万引き犯罪やEAS機器への正しい理解が進み、ロス削減に必要な観点、店舗内の従業員配置にも繋がることが期待される。

講習会は有償で、JEAS正会員4000円、その他は8000円。講習会は当面JEAS会員や万引防止システム関連企業の販売、設置、保守などに関わる担当者を受講対象とするが、ユーザ向けのプログラム拡大も見据える。将来的には、万引防止システムに関する資格制度への拡大も目指す。